

地元住民が主体となり 環境保全活動による地域活性化

福岡県：天生田資源保全実行委員会

○団体の目的と経緯は？

【目的】

農地・農業用施設の管理や生きものの保全等を通じた地域活性化

【経緯】

天生田地区では、農家減少や高齢化等により、地域活動が希薄化、さらに、基盤整備事業等により地域の生きものや農村の美しい景観が損なわれつつあった。このため、自治会の会長が中心となり、営農組合、土地改良区、消防団、婦人部、子供会と協議を重ね、当組織を設立し、農業用施設の管理や生きものの保全などの地域の活性化を図る取り組みを開始した。



環境配慮施設全景

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】用排水路、ため池、ビオトープ等の環境配慮施設

【活用した事業等】元気な地域づくり交付金（農山漁村プロジェクト支援交付金）

【保全対象生物】ミナミメダカ、ドンコ、コガタノゲンゴロウ、ヘイケボタル、ニホンアカガエル

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 環境配慮施設の管理

①生きものの生息に配慮した環境づくり

- ・魚類や水生昆虫等の生息に配慮し、複数施設に区分けした環境づくりを実施
- ・ニホンアカガエルの保全
- ・景観形成として、ため池や水路周辺におけるアジサイ等の植栽活動

②外来種の駆除

- ・ため池や水路にカゴ網を設置

2. 生きもの勉強会の開催

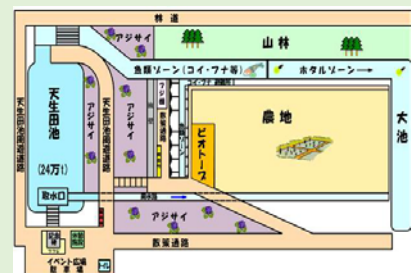
①地域住民を対象に生きもの勉強会を開催

- ・有識者を講師として招いている

3. 学校教育との連携

①出前出張・生きもの現地調査

- ・地域の学校へ、生きものに関する出前授業を実施
- ・保全施設において、生きもの調査を実施



環境配慮施設（概略図）



ビオトープ施設

○継続した活動でこんな効果が！！



生態系配慮水路

■地域の資源であるヘイケボタルが約3割増加

・有識者の指導等を基に施設の改良及び適正な維持管理を行っており、地域の資源であるヘイケボタルは、平成25年から27年にかけて約3割増加している。

■地域住民の生きものに対する関心度の向上

・生きもの勉強会はこれまで3回開催し、参加者は年々増加しており、地域住民の生きものに対する関心が高まってきている。

■地区外との交流の創造

・マップ等の看板を設置し、生息する生きものや施設説明により、地区外の方に紹介している。

○課題・苦労した点

■構成員の高齢化により、活動への参加者数の減少

・生きもの調査は人手を要するため、どう継続するかが課題であった。

■知識経験不足

・生態系保全について専門的知識の不足

○工夫した点

■学校教育との連携

・生きもの調査は、教育の一環として、地域の学校と連携して実施している。

■自ら情報収集

・専門家による指導を受けたほか、自らインターネットによる情報収集、勉強会への出席などにより、知識不足を解消。

○活動の特徴！！

■環境配慮施設の幅広い活用

・施設を維持管理するだけでなく、小中学校と連携して環境学習施設として利用している。さらに、マップ等の看板を設置して紹介することで都市部から訪れた方との交流の場としても活用している。



○団体の概要は？

- ・平成19年度に設立され、活動エリアは、福岡県行橋市天生田（旧今川村）である。
- ・任意団体であり、人数は約150名。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約70日である。

